

学 会 記 事

◎第10回理事会（昭.31.3.16）出席者：菊池会長，飯田，柴橋，星埜，後藤，河北，上野，畠山各理事。議事：1）2月中の行事その他報告，2）昭和31年度事業計画案審議，3）昭和31年度予算案審議，4）土木学会規則第12条の改正案審議，5）耐震工学委員会（沼田委員長説明）について，6）日本工業標準調査会基本部会 単位記号専門委員会 土木学会代表 篠原清君転出につき後任に東大助教授 井口昌平君を推薦すること，7）関東地建と土木学会事務所建設のための上下水道等の共通設備費を折半負担について，8）昭和29年度法人税更正決定通知に対する異議申立について，9）常議員会開催日を3月28日とする，10）5月総会，講演会，見学会について，11）夏季講習会題目および講師について，12）朝日科学奨励金候補推薦について，13）国際標準化機関（ISO）からの学術文献の「書誌参照」に関する照会に対し，文部省大学学術局長から依頼があつたが編集部に一任，14）西部支部役員改選について（支部長：近藤 勇，地区常議員：上ノ土 実（新任，5月総会后），田賀秀和，坂田静雄（留任），15）会員入退会について。

◎常議員会（昭.31.3.28）出席者：菊池会長，藤井，種谷両副会長，五十嵐，伊地知，久保，斎藤，西沢，林，村，森，鈴木，井上，田中，藤森，矢野の各常議員，ほかに委任状17通，安芸，真田，那波，八田，米元の各名誉員，三浦，平井，青木の各前会長，宮本東北支部長，糸川編集委員長。議事：昭和31年度事業計画案承認。

本部事業計画（行事）4月：関東地区常議員半数改選，5月：第7回日本工学会大会，水理講演会，常議員会，通常総会，第7回工学会大会土木部会，見学会，8月：夏季講習会，見学会，9月：橋梁構造工学研究発表会，10月：改訂コンクリート示方書講習会，海岸工学講演会，第6回応用力学連合講演会（京都），11月：秋のエキスカッション，3月：常議員会，その他随時講演会，映画会を開催のこと。

（各種委員会）
 会誌編集委員会：学会誌の編集のため毎月1回
 論文集編集委員会：論文集編集のため毎月1～4部会，隔月に部会長会抄録委員会：文献抄録および文献目録のため毎月1回
 水理委員会：研究，講演会，年報および論文集の編集，小委員会として水理公式集の改訂を検討中
 コンクリート示方書改訂委員会：無筋，鉄筋，ダム，道路の4分科会でそれぞれ鋭意研究中
 プレストレスト コンクリート委員会：一応指針を発行したが，なお常置して研究を進めること。
 土木工学叢書委員会：土木工学叢書の企画
 法規委員会：工務士法案の研究
 製図規格委員会：各部門の基準を研究
 海外連絡委員会：国際会議との連絡

橋梁構造委員会：日本学術会議国内委員会の分科会として活動
 土木賞委員会：土木賞の監衡
 海岸工学委員会：海岸工学の研究
 耐震工学委員会：耐震構造物の研究，さしあたり第1回地震会議との連絡

土木会館建設委員会：会館建設準備中
 大正以降土木史編集委員会：各委員原稿執筆中
 土木用語常設事典委員会：用語選定中
 大阪駅沈下対策委員会
 コンクリート鉄道構造物委員会 } 国鉄委託
 溶接鋼鉄道橋設計示方書委員会 }

2) 土木学会規則第12条第1項改正承認

1. 正員 年額 1000円
2. 特別員1級 " 10000円以上
- 同2級 " 6000円 "
- 同3級 " 4000円 "
3. 准員 " 700円 "
4. 学生員 " 500円 "

なお准員，学生員で論文集を必要とする場合は別に論文集用会費として200円を要する。

3) 昭和31年度予算案承認

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
I. 会 費	12 616 000	I. 事 務 費	6 608 000
1) 正, 准, 学生 員会費	8 135 000	II. 会 議 費	280 000
2) 特別員会費	1 031 000	III. 負 担 金	70 000
3) 過年度収入	900 000	IV. 支 部 交 付 金	950 000
4) 特別賛助費	2 550 000	V. 事 業 費	11 509 000
II. 政府補助金	200 000	VI. 営 繕 費	50 000
III. 諸刊物収入	3 805 000	VII. 積 立 金	100 000
IV. 雑 収 入	3 113 000	VIII. 予 備 費	167 000
合 計	19 734 000	合 計	19 734 000

4) 土木会館建設にともなう基金運営について承認，
 5) 各支部事業計画および予算について報告，6) 土木学会誌の新しい表紙の案について，7) 昭和30年度土木賞選定中間報告。

◎各種委員会

1. 第3回会誌編集委員会（昭.31.3.20）出席者：糸川，後藤正副委員長，左合抄録委員長，河上（代松本）東北地方委員，栗栖，森，八十島，林，針ヶ谷，安藤，竹下，西畑，猪股，菊池，松本各委員，中川書記長，深谷幹事，岡本編集員。議事：1) 41巻5号編集の件，2) 表紙について，3) ニュースについて，4) 書評について，5) 文献抄録および文献目録について，6) 新規原稿の依頼，7) 今後の依頼原稿のあり方，8) 編集後記について，9) 用語について。

2. 論文集編集委員会 第2回部会長会（昭.31.3.23）出席者：本間委員長，岡本，星埜，佐島各部会長，久保，林，白石，春日屋，徳平の各幹事。議事：1) 各部会の議事報告，2) 受付原稿の処理，3) 6月発行論文集の登載論文を次のとおり予定する。

星 治雄：梯子桁の荷重配分について，元 泰常：極大洪水量公式に関する研究，奥村敏恵：軟鋼の降

伏条件に対する一吟味、西村 昭：鋼道路橋設計活荷重に関する考察、岩垣雄一・土屋義人：水滴による地面浸食に関する二、三の実験、S. Tanaka & S. Sugimoto：On the Velocity Distribution & the Mixing Length Peculiar to the thin Supercritical Flow Streaming on a Rough Bed、内田泰郎・加藤正晴・小川 元：ポンプ船排砂管内の土砂濃度および流れ変換係数について、成岡昌夫・平井一男：合成格子桁橋の自由振動周期について。

3) 審査方針について協議した。

第1部会(昭.31.3.13)、第2部会(3.14)、第3部会(林)、第4部会(3.19)：それぞれ開催して論文の審査を行った。

3. 第2回会誌編集小委員会(昭.31.3.7) 後藤副委員長、森、針ヶ谷、栗栖(代)、中川書記長、深谷幹事、岡本編集員。議事：1) 41巻4号編集につき最終審議を行った、2) 表紙について、3) ニュースについて、4) 組み方について。

4. 第10回会誌抄録委員会(昭.31.3.7) 左合委員長、樋口、久野、中村、稲田、二階堂、山口、加藤、千秋幹事。議事：1) 41巻4号登載用として5編を予定、2) 文献目録として4号に登載するものは雑誌31点、題目合計229、刷上り3.5ページとした、3) 抄録線越5編、新規6編、4) 抄録委員会覚え書の訂正および運営について。

5. 土木工学叢書委員会(昭.31.3.2) 出席者：佐藤委員長、岡本、星埜、最上、米元の各委員、技報堂の渡辺、宮崎両君。議事：1) 前回計画した企画について再確認した。河川工学は山本三郎君執筆を承諾、港湾工学は当分見合せ、基礎工学は次回までに最上委員が立案する。都市計画は松井達夫君が執筆承諾、道路工学は片平信貴君の執筆にかかるものが5月末出版の予定。

6. 第4回耐震工学委員会(昭.31.3.5) 出席者：沼田委員長、最上、神谷、岡本、平井、友永(代)、田原、星埜、近藤の各委員、久保幹事。議事：1) 世界地震工学大会出席者について、2) 震書記録写真蒐集について、3) 強震測定計画推進並びに記録整理刊行の連合委員会設置については慎重に再考のこと、4) 研究連絡委員会を日本学術会議内に設置することは慎重に研究の上申出るべきだとの意向である、5) 次期国際会議について。

7. 第34回コンクリート鉄道橋造物委員会(昭.31.3.7) 出席者：吉田委員長、高坂(代赤沢)、坂本(代天野)の各委員、三浦、川口、深谷、松本の各幹事。議事：第2章 版、2節 12~19条、3章 はり1~2条審議。第35回同委員会(昭.31.3.22) 出席者：吉田委員長、友永、高坂、坂本(代天野)の各委員、

梅木、赤沢、三浦(代近藤)、川口、深谷、松本の各幹事。議事：3章 はりの原案審議。第36回同委員会(昭.31.3.27) 出席者：吉田委員長、高橋、友永、高坂、坂本、宮沢(代高橋)の各委員、仁杉、梅木、尾崎、三浦(代近藤)、杉田(代天野)、川口、深谷、松本の各幹事。議事：4章 柱 1~4条の審議。

8. 第2回土木賞委員会(昭.31.3.8) 出席者：吉田委員長、東(代)、佐藤(代柴橋)、本間、町田、松村、荒井、星埜の各委員、白石、北岡、西畑、関、猪股、岸、成岡、林、後藤、竹下、徳平の各担当編集委員。議事：1) 編集委員会の推薦した候補論文につき、推薦理由書を星埜委員長が朗読の上説明し、なお詳細内容を担当委員から説明した、2) 次回までに学会賞、奨励賞各2編ずつを選び投票すること、3) 次回は最後決定のため必ず本人が出席すること、従つて地方委員には旅費実費を支給すること。第3回同委員会(昭.31.3.26) 出席者：吉田委員長、藤井副会長、東、岡本、佐藤、当山、町田、荒井、矢野、庄司の各委員、星埜編集部長。議事：1) 投票 23 通を開票の結果次のとおり決定した。

学会賞：

1. 支間 30 m のプレストレスト コンクリート鉄道橋(信楽線第一大戸川橋梁)の設計施工及びこれに関連して行った実験研究の報告(論文集 27号) 正員 工博 仁 杉 巖

1. 混和材としてのフライ アッシュに関する研究(論文集 31号) 正員 吉 越 盛 次

奨励賞：

1. 砂礫をとまなう掃流作用について(40巻8号)

浮流流砂が流れに及ぼす影響について(40巻9号)

准員 椿 東 一 郎

1. 直交異方性板理論の斜桁橋構造物への適用に関する研究(40巻10号)

直交異方性板理論の連続桁橋構造への適用に関する研究(40巻11号)

正員 米 沢 博

9. コンクリート示方書改訂委員会分科会 無筋分科会(昭.31.3.19)、鉄筋分科会(昭.31.3.9 および17)、道路分科会(昭.31.3.10 および27)、ダム分科会(昭.31.3.15 および28)

10. 第4回溶接鋼鉄道橋設計示方書委員会(昭.31.3.20) 出席者：田中委員長、田原、平井、田中(五)、奥村(代出口)、中根、友永の各委員、西村、安浪、大宮、田島、阿部、田梅、宮崎の各幹事。議事：1) 設計示方書 5章3節 プレートガーダー、2) 自動溶接設計および製作示方書について。同小委員会(昭.31.3.28) 出席者：田中委員長、奥村、友永、西村、菊池、安浪、大宮、大谷、田島、阿部、大久保の各委員。議事：第4章 設計計算 について審議。

11. 水理公式集改訂委員会発電部会(昭.31.3.22) 出席者：市浦主査ほか分科委員。議事：水理公式集の発電部門構成について検討した。

12. 大阪駅沈下対策委員会（昭.31.3.26）出席者：沼田委員長，最上，星埜，森田，高坂，小田の各委員，渡辺，松波，仁杉，白石の各幹事。国鉄関係者20名，議事：1）基礎杭設計上の摩擦力の判定，2）多井式再充水工法，3）梅田粘土層の電気化学的固結法，4）アンダーピーニングの経過報告，5）最近の沈下状況，6）多井式再充水工法の今後の方針等について審議。

13. 第8回土木会館建設委員会（昭.31.3.30）出席者：金子委員長，金子（柱），佐藤，滝尾，立花の各委員，五十嵐幹事，関東地建桜井営繕部長，同角田建築第一課長および下山忠廉氏。議事：1）金子委員長経過報告，2）建築設計について桜井，角田両氏から説明，3）下山氏から庭園設計の説明，4）請負業者の選定について協議，5）庭利用のクラブ設立案について。

◎その他

1. 日本学術会議溶接研究連絡委員会第1回シンポジウムを3月16日開催した。

2. 建設省技術審議室首席主査から国連専門家募集があつたから，適任者があれば連絡するよとの照会に接したので，それぞれ関係方面へ連絡した。1）フィリピン政府から鉄道専門家，2）インドネシア政府から発電水力専門家。

3. 夏季講習会打合せ（昭.31.3.13）出席者：平井，河北両理事，東港湾局建設課長，山内建設省河川局防災課長（代西畑），岡本東大教授。議事：災害と防災対策を主題とし講師はそれぞれ分担して内交渉を進め，企画を理事会が承認すれば，早い機会に講師打合会を開催すること。

支部だより

1. 北海道支部 昭和31年度予算

収入の部		支出の部	
区分	金額	区分	金額
1) 繰越金	77 907	1) 事務費	30 000
2) 本部交付金	76 000	2) 会議費	55 000
3) 寄付金	150 000	3) 事業費	155 000
4) 雑収入	11 000	4) 予備費	74 907
合計	314 907	合計	314 907

2. 東北支部 技術研究会（昭.31.3.9.復興建設技術協会東北支部後援）参加者130名，盛況裡に終了した。研究題目および発表者は次のとおりであつた。

洪水波の変形（伊藤俊美），鳴子アーチダムの溢流部デフレクター（長井 健），都道府県道の再編成特に道路密度（南保 賢），小名浜港9m欠板岸壁の設計（伊藤 甫），東北本線吉田川鉄道橋新設工事（柴内与一），トラスの架設（佐々木正栄），ダムの越流係数（岩崎敏夫），八久保発電所工事特に水圧鉄管のサポート（武田良平），土壌の電気浸透による脱水（山下 宏），特別講演：荒廃河川の流出土砂の処理（鷲尾 龍龍），映画：原子力を産業へ，ほか一点

役員会（昭.31.3.9）出席者：鶴見顧問以下14名，議事：1）昭和31年度事業計画および予算案の審議。（事業計画）5月：支部総会・講演会，7月：見学会，8月：講演会・講習会，9月：映画会，10月：見学会，2月：技術研究会（昭和31年度予算）

収入の部		支出の部	
区分	金額	区分	金額
交付金	150 000	事務費	100 000
特別交付金	50 000	事業費	100 000
計	200 000	計	200 000

2）第7回工学会大会土木部会の講演募集について，3）その他。

3. 中部支部 第12回幹事会（昭.31.3.6）出席者：鈴木幹事長ほか14名。議事：1）昭和30年度行事報告，31年度行事予定原案，2）昭和30年度決算見込並びに昭和31年度予算原案。

第3回役員会（昭.31.3.19）出席者：杉戸支部長ほか36名。議事：1）昭和31年度事業報告並びに決算見込，2）昭和31年度行事予定並びに予算について了承。

（行事）4月：役員会，5月：講演会，6,7月：見学会，8月：講演会，9月：支部大会，10月：研究発表会，11月：見学会，12月：学生見学会・役員会，1月：講演会，2月：見学会，3月：役員会・講習会（昭和31年度予算）

収入の部		支出の部	
区分	金額	区分	金額
繰越金	23 945	事務費	30 000
交付金	150 000	会議費	51 000
雑収入	1 055	事業費	94 000
計	175 000	計	175 000

3）昭和31年度支部長に名古屋港管理組合副管理 者 前田一三氏が推薦され万場一致で決定された。

道路講習会（昭.31.3.19～20. 名交会館において）両日とも相増の雨にもかかわらず熱心な聴講者は192名におよび第1日丸安，星埜，近藤各教授の講義に熱心に聴き入り有益な1日目を終り，第2日目は渡辺，荒井教授の講義を午前中に終り終了証書授与の後，午後映画および見学会を行つた。見学会は名古屋港および東海コンクリート工場を見学した。

4. 関西支部 基礎工学講習会（昭.31.3.22～23）

聴講者255名，題目および講師：

基礎の力学（伊藤富雄），基礎の水理（久保田敬一），基礎の化学（三瀬 貞）基礎の調査（村山朔郎），基礎の地質（竹中準之介），基礎の振動（畑中元弘），基礎の沈下（赤井浩一），基礎の設計（松尾新一郎）（昭和31年度予算）

収入の部		支出の部	
区分	金額	区分	金額
1) 交付金	200 000	1) 事務費	80 000
2) 事業収入	300 000	2) 事業費	460 000
3) 雑収入	18 000	3) 雑費	18 000
4) 繰越金	40 000		
計	558 000	計	558 000

昭和31年度事業予定：総会1，役員会10，見学会1，講演会3，講習会2，調査委員会随時

第4回役員会（昭.31.3.28）出席者：野田支部長ほか20名。議事：1）商議員奥田正夫君転任のため中田一幸君（滋賀県土木部道路課長）を補選，2）31年度支部長，商議員，本部常議員の投票について，3）31年度予算案について了承，4）本年度支部総会は5月2日大阪市において行うことに決定。

5. 中国四国支部

昭和31年度事業計画：役員会12，支部学術講演会1，見学会2，講演会1，講習会2。

（昭和31年度予算）

収入の部		支出の部	
区分	金額	区分	金額
前年度繰越金	236 988	事務費	80 000
本部交付金	100 000	事業費	350 000
寄付金その他	200 000	雑費	106 988
計	536 988	計	536 988

6. 西部支部 昭和31年度事業計画および予算

（事業計画）5月：研究発表会，8月：夏季講習会および見学会，9月：講演会，10月：研究発表会，12月：見学会，2月：総会および懇親会

（予算）一般会計

収入の部		支出の部	
区分	金額	区分	金額
前年度繰越金	101 388	事業費	490 000
本部交付金	120 000	事務費	200 000
寄付金	450 000	予備費	31 338
雑収入	50 000		
計	721 388	計	721 388

（特別会計）西日本水害調査費

前年度繰越金	79 628	事務費	37 000
文部省補助金	200 000	印刷費	500 000
寄付金	300 000	予備費	42 628
計	579 628	計	579 628

（基金会計）

前年度繰越金	2 100 000	次年度へ繰越金	2 100 000
計	2 100 000	計	2 100 000

昭和31年3月分入退会報告（昭.31.3.1~3.31）

- 1. 入会 72名（正員12，准員21，学生員39）
- 2. 退会 34名（正員11，准員22，特別員2級1）
- 3. 転格 10名（准員より正員7，学生員より准員2，特別員1級より2級1）

会員現在数（昭.31.3.31.現在）

名誉員	賛助員	特別員	1級	2級	3級	正員	准員	学生員	合計	増加
19	30		28	71	126	5 145	5 784	1 345	12 548	38

室蘭工業大学々長，元土木学会北海道支部長 井口鹿蔵博士は，去る3月13日脳腫瘍により逝去されました。享年67才，4月17日同大学におきまして大学葬が行われます。

ここに本会は紙上より会員各位を代表して深く哀悼の意を表する次第であります。

年改まつて新企画が起り春たけなわに新会誌の誕生を見る。会員の皆に親しまれ，すみずみまで読まれるようにと生れた会誌であるが，今後の成長はひとえに会員諸兄の御協力

—編—集—後—記—

に待つのみである。
新しい酒は新しい袋に，そこで表紙も従来の白一色から二色刷りにし

て内容の一新を表わしてみた。会誌の内容とともに表紙に対しても多くの建設的御意見の寄せられることを期待する。

（森，栗栖，針ヶ谷・記）

昭和31年4月10日印刷
印刷者 大沼正吉
編集兼発行者 中川一美
定価 100円

昭和31年4月15日発行
印刷所 株式会社 技報堂
発行所 社団法人 土木学会
振替 東京 16828番

土木学会誌 第41巻 第4号
東京都港区赤坂溜池5番地
東京都千代田区大手町2丁目4番地
電話 (20) 3945・4078番